

## 2020年、あれこれ



今年は予想外れで、期待どおりにならなかった歴史に残る一年になりました。なんだか人間も自然も試されている時代を送っているかのように、不安にさせるシナリオになっていますが、今年は多くの方が自然に目を向けたのではないかと思います。

あきる野においては、目立った自然災害などは起きなかったため、意外と穏やかな一年でしたが、春夏の雨量は例年より多く、日照不足や温暖化の影響は印象的でした。

今回の新聞は、今年最も記憶に残った自然との出会いを紹介します。



### 台風のともし物

台風が立ち去る時は、意外と奇跡的なタイミングを目にすることがあります。理由は、台風の影響を受けて渡りのルートから外れた迷鳥が発生する可能性があるため、珍しい種類との出会いが期待できるからです。今年、台風による「迷鳥」よりも、珍しい「迷蝶」に出会ったことが印象的でした。それは、沖縄などでみられる「カバマダラ」です。基本的に九州以北には生息しない種類で、南国の蝶というイメージが強い蝶です。温暖化の影響か、近年は徐々に北上しているため、台風後は本州でも記録されることがありますが、あきる野周辺で記録されるのは初めてと思われます。

→(写真)ツマグロヒョウモンとは違うことに気付いて追ってみたら思わぬ出会い、秋川に「落ちた」美しいカバマダラ

### 長雨で良かったこと

あきる野の自然を10年も調べていますが、生息しそうな鳥類や昆虫はまだ未確認状態です。

今年、長年に渡り市内で探していたネブトクワガタにやっと出会えました。あきる野西部の山地2カ所で、この甲虫が好むモミの木で見つけました。これまで出会えなかったのに今年なんと、2回も出会えました。よく考えたら、雨が多かったからか、クワガタの仲間が好む樹液が出る木の数が多かった印象を受けました。今年の一部の昆虫の当たり年だったかもしれません。



### ギリギリのウズラ

今年6月、あきる野市と日の出町の境界付近で見つけたウズラは正式な初記録となりました。養殖ではよく知られていますが、多種が存在する中、在来の野生のウズラは非常に少なく、年々その目撃情報が少なくなっています。今回記録した個体は渡りの途中だったと思われるが、この先もこの地域に立ち寄れる環境が残ってほしいと深く思いました。初めてみた野生のウズラは、やはり美しかった。





## 幸福の運び屋

今年、最も衝撃的な出会いは、秋が深まる頃の河川敷で確認したナベヅルの渡りです。たった7羽の群れでしたが、とても存在感がありました。ぱっと見て、ツル類はサギなどに似ていますが、よく見ると模様が異なり、首を伸ばして飛ぶことから簡単に見分けられます。市内上空でゆっくりと旋回し、西南方向に移動する姿を目撃しました。

ナベヅルは、世界で約1万2千羽しか生息しないと言われ、その約9割は毎年鹿児島県の限られた地域で越冬します。種の保存法の国際希少野生動物種や環境省の絶滅危惧II類(VU)に指定されており、タンチョウと並ぶ貴重な鳥類です。関東を横断する機会はほとんどなく、あきる野で会えるのは奇跡に近いです。その奇跡が起きるこのあきる野の自然の素晴らしさを改めて実感しました。

## どんなことがあっても、飽きない自然

人間の世界では異例な一年でしたが、こんな世の中だからこそ、癒しの元でもある自然の恵みに目を向けた人が多かったと思われます。この2020年で自然に触れ合う中、是非その素晴らしさや大切さを理解し、共に歩みながら来年はより明るい一年を迎えましょう。

### 馬頭川尾根



## ～ お願い ～ 両生類・爬虫類を守りましょう！

道路上で車などにひかれたヘビやカエルを見たことはありませんか。ほとんどのの方が見たことがあると思いますが、その被害はとても多いとされます。生態系においては欠かせない存在である両生類・爬虫類も人間には嫌われることが多く、あまり認識されませんが、自然のバランスを守るために彼らを大切にする必要があります。特に、「毒があるかもしれない、危ないからいない方がいい」とされることが多いヘビ類は、様々な被害を受け激減してきました。日本では、両生類・爬虫類の保護が遅れているとみられ、少しでも車による被害の減少につながる働きかけができればと思い、市内の林道や山道の一部に、これらの保護に向けた看板を設置しました。両生類・爬虫類に対する意識が高まり、今後の効果を祈るばかりです。



市内の広い道路でひかれたタカチホヘビとヒバカリの様子

